

niponica

Discovering
Japan

にほにか

no. 24



特集

祭りと生きる



日本語で「日本」を表す時の音「にっぽん (nippon)」をもとに名づけられた「にぽにか (niponica)」は、現代日本の社会、文化を広く世界に紹介するカルチャー・マガジンです。日本語版の他に、英語、スペイン語、フランス語、中国語、ロシア語、アラビア語の全7カ国語版で刊行されています。

特集

祭りと生きる

04 多くの願いを込めた日本の祭り

12 日本の祭りの基礎知識

14 地域に根差したユニークな祭り

16 祭りを支える人びと

19 知りたい! 祭りの衣装

20 子どもが主役の祭り

22 召し上がれ、日本
たこ焼き

24 街歩きにっぽん
佐伯

28 ニッポンみやげ
お面

表紙／毎年12月上旬に行われる埼玉県の秩父夜祭は日本三大曳山祭りの一つ。かつて絹織物の生産地であったこの地に伝わる市が祭りへと発展した。豪華な屋台と花火は日本屈指の華やかさを誇る
写真＝アマナイメーجز

no.24 H-300329

発行／日本国外務省
〒100-8919 東京都千代田区霞が関2-2-1
<http://www.mofa.go.jp/>



上／提灯の灯りが祭りならではの非日常の世界へ
といざなう
右上／祭りの露店で人気が高いヨーヨー
右中／あんずを飴にした露店も並ぶ
右下／祭りの衣装を着た女の子
写真＝アマナイメーجز、ピクスタ



特集
祭りまつと生きるい
豊かな恵みめぐと人びとひとの健康を祈り
祭りを大切たいせつに受け継ついできた日本にほん。
神様かみさまに感謝かんしゃし、願いねがいを込めた祭りの日は特別な空間まほうかんとなる。



おお ねが こと
 多くの願いを込めた
 に ほん まつ
 日本の祭り

写真●アマナイメーゼズ、アフロ

よさこい祭り
(高知県)

町の活性化と市民の健康を願い、1954年に地元企業らが集まって踊りを披露したことに始まった。約2万人の踊り手が多種多様な音楽や趣向を凝らした衣装をまとうて舞う



てん じん まつり
天神祭
おおさか ふ
(大阪府)

蒸し暑い夏に蔓延（まんえん）する疫病を祓（はら）うため約1000年前から行われる。神様をのせた神輿（みこし）を町の人が担いで市内を巡って幸せをもたらす

ひとひと
人と人との
つながりを深める

し き に ほん き せつ まつ おこな う
四季がある日本では季節ごとに祭りを行うことで地
れん たい かん たか まつ ひと こころ
域の連帯感を高めてきた。祭りは人びとの心のより
どころであり、エネルギーの源である。

職人らの 匠の技が光る

日本人の美意識は、祭りの神輿や山車の細工や飾り、衣装などにも宿る。華麗な装飾を施し、神様を迎え、丁寧にもてなす。職人たちによる伝統的な技法は神様への感謝の意である。

葵祭 (京都府)

右ノ長く凶作に苦しんでいた6世紀に世の平安と五穀豊穡を願う祭りとして始まった。当時の貴族の装束や化粧、髪型を再現した行列が行われる
下ノかつての貴族が移動のため牛に曳かせた乗り物も登場。伝統が受け継がれてきたからこそその華麗な光景



祇園祭 (京都府)

高さ約25mの山車を曳(ひ)いて天災などをもたらす神様を鎮める。9世紀に外国から輸入した装飾品や地元の職人らによる美術工芸品で装飾された山車は観客の目を惹き付ける



自然とともに生きる

海、山、川などの自然が豊かな日本では、魚介や農作物などの自然の恵みを受けてきた。自然に宿る神様への感謝と畏敬の念を示すための祭りが行われる。

那覇ハーリー (沖縄県)

下ノ漁業が盛んな地域では「海上安全」や「豊漁」を願い、水に関連する祭りが行われてきた。土地の神様に祈りを捧げ、龍を模した漁船、「ハーリー船」に乗ってその速さを競う



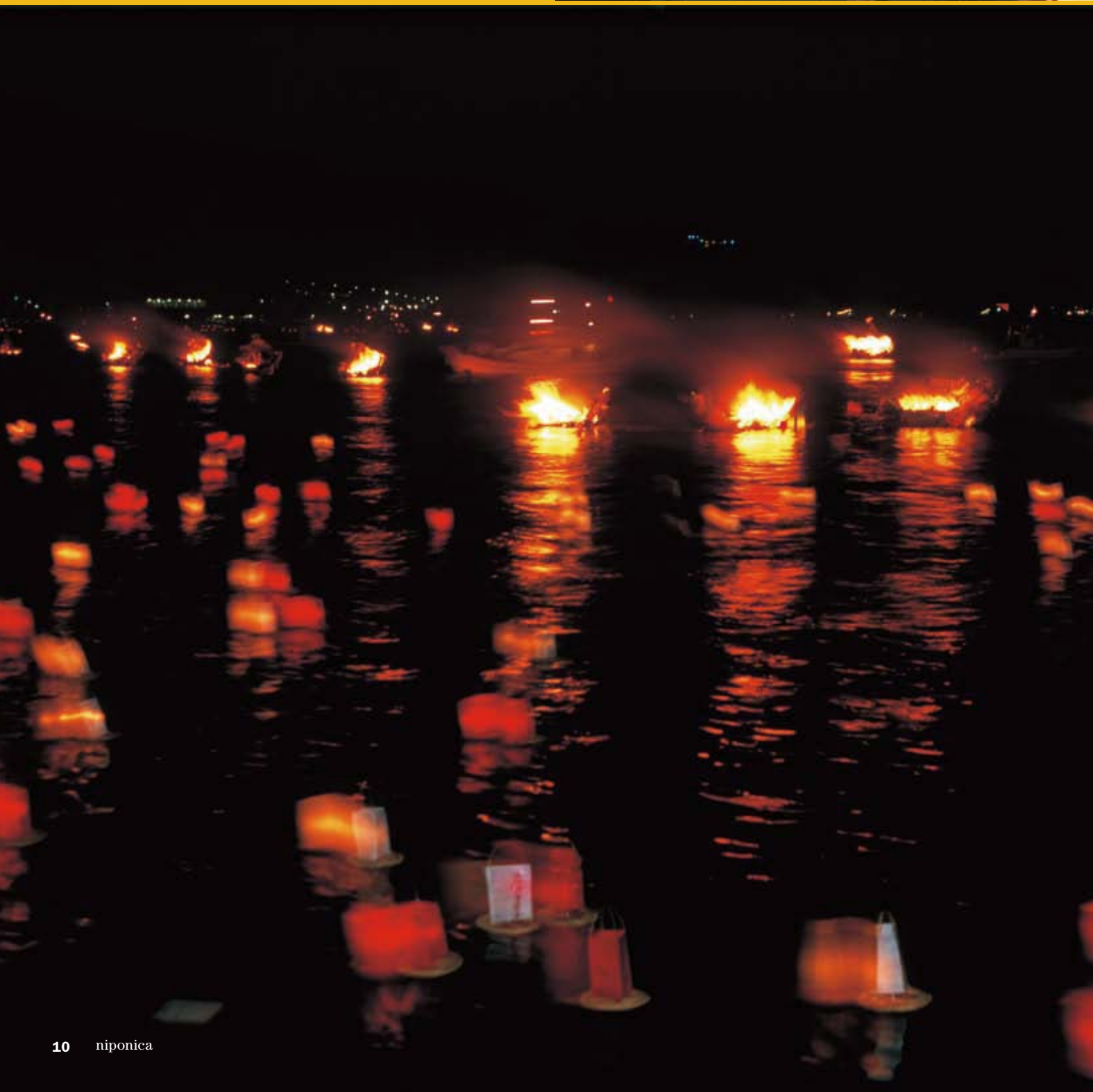
那智の扇祭り (和歌山県)

右ページノ山の神様が1年に一度赤色の扇形の神輿（写真上部）にのって神聖な滝に里帰りする。松明を燃やして神様がのる神輿と参道を清める



先祖と土地への 敬意を伝える

賑やかな祭りだけでなく、厳かな気持ちで過ごす祭りもある。先祖への感謝、そして先祖が大切にしてきた風習を受け継ぐ。



庭月観音 灯籠流し (山形県)

7～8月中旬に先祖の霊をあの世へと送る行事が各地で行われる。火を焚いて先祖の魂を送るため灯籠を川へ流す。東北地方の山形県では、灯籠の数が東日本最大規模におよぶ灯籠流しが毎年行われる

かまくら祭り (秋田県)

約400年前から豪雪地帯で親しまれている高さ約2mの雪室、「かまくら」。もともとは水の神様を祀る祠が起源で、現在も水の神様を迎えるため、祭壇を設ける。大人の膝ほどのかまくらを並べた祭りも行われる



日本の祭りの基礎知識

日本にある多くの祭り。

では、どのくらいの数で、どういう目的で行われているのだろうか。
祭りに詳しい芳賀日向さんに話を聞いてみました。

Q1

なぜ1年を通して多くの祭りが行われているのでしょうか。

A

日本には四季があり、命が芽吹く春には1年間の豊作や大漁を願います。蒸し暑い夏はかつて疫病が蔓延したため、邪気を追い払う威勢のよい祭りが行われています。またこの世に戻ってくる先祖をもてなす行事に因

んだ祭りもあります。収穫の秋には恵みを神様に感謝する祭りが、寒い冬には1年の無事と新年の願いを込めた祭りが行われます。このように、季節の変化を神様の力を得て乗り越えようとして祭りをを行ったため、1年の間にさまざまな祭りが行われるようになり、今も続いています。



- 1 豊作を願って田植えの祭りを行う
- 2 夏の盆踊りは厄病神を祓うとされる
- 3 秋には収穫した野菜などを神様に捧げる
- 4 冬にやってくる幸せをもたらす鬼の姿をした神様



海に浮かぶ岩を神聖視する

Q2

どのくらいの祭りがありますか。

A

さまざまな説がありますが、公開されている祭りは約30万以上あります。日本では海や山、川などの自然から、家の台所や風呂、道端の石などにさえ神様が宿していると信じてきました。そのため、それらの神様の数だけ祭りがあるといわれています。そのほか、神社や寺院で行われている祭り、家庭単位で行われている祭りもあり、膨大な数に及びます。また、神様も仏様も一緒に祀ったり、時には大蛇や獅子なども神様として大切に祀ったりして祭りにしてきました。

Q3

主にどのような願いを込めて行われているのでしょうか。

A

私の調査では、「神社に伝わる祭り」「豊作や豊漁を祈って感謝する祭り」「健康と安全、子孫繁栄を祈る祭り」「歴史上の人物をたたえる祭り」「平

和な世を願う祭り」「先祖の霊を供養する祭り」「地域の伝統的な行事や芸能を受け継ぐ祭り」「町を元気にする新しい祭り」の8つに大きく分けられます。1つの祭りで2つ以上の願いが込められている祭りもあります。

Q4

外国からの影響や交流を感じさせる祭りはありますか。

A

例えば、1100年以上も行われている京都市の祇園祭に登場する山鉦が現在のように豪華な装飾になったのは今から約500年前です。この山鉦には西欧や南西アジアから輸入された織物などが飾られ、当時の京都の商工業者の豊富な財力や日本と外国との交易の範囲の広さがうかがえます。そのほか、長崎県のくんちという祭りでは、約400年前のオランダとの交流をうかがわせる踊りがあり、今も受け継がれています。



上／祇園祭の山車に飾られた外国製の織物
下／約400年前に日本に渡航したオランダ人の衣装を身にとりて演じる「くんち」の舞

芳賀日向（はが・ひなた）
祭り写真家。日本国内を含め、48カ国の祭りを取材し、専門書から図鑑まで祭りに関する著書多数。

地域に根差した ユニークな祭り

日本では、それぞれの土地ならではの文化や歴史、
風土に由来する祭りが古くから大切に守られてきた。



和歌山 Wakayama

笑い祭 (日高川町)

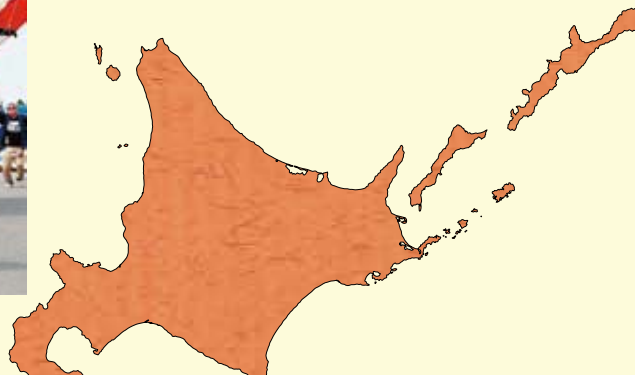
顔を白く塗り、手には鈴を持った老人が「笑え」と練り歩き、幸せを願う
<http://www.town.hidakagawa.lg.jp/>



新潟 Niigata

白根大風合戦 (新潟市)

世界最大規模の大きさの風揚げ競争。大風が落ちるまでぶつけ合う
<http://www.shironekankou.jp/tako/>



東北地方

Tohoku Region 東北絆まつり

2011年の東日本大震災で亡くなった犠牲者の鎮魂と復興を願って始まった祭り。東北6県を代表する祭りが一堂に会する。東北6県内で順番に開催場所が変わるのも特徴
<http://tohoku-kizunamatsuri.jp/>

1 ねぶた祭り (青森県)

大きな山車を走らせ、夏の夜にやって来る悪霊を追いはらう



2 竿燈祭り (秋田県)

秋の豊作を願って高い提灯（竿燈）で演技をする



3 盛岡さんさ祭り (岩手県)

鬼退治のために1万の和太鼓を叩いて踊る



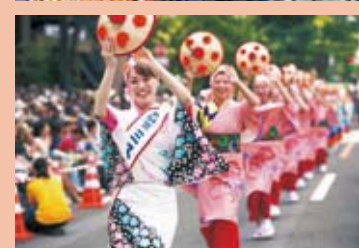
4 仙台七夕祭り (宮城県)

竹に飾りを付けて豊作や健康を祈る



5 花笠祭り (山形県)

華やかな山車や踊り手が登場し、山の恵みに感謝する



6 わらじ祭り (福島県)

脚の健康を祈って日本一大きなわらじが登場



写真提供=仙台市東北連携推進室、新潟県新潟市南区観光協会、静岡県掛川市、和歌山県日高郡日高川町、山口県岩国市、愛媛県宇和島市、長崎県長崎市、熊本県阿蘇市、共同通信社

兵庫 Hyogo

西宮神社の 開門神事 (西宮市)

一番先に神社の本殿に着いた男は「福男」とされる
<http://nishinomiy-ebisu.com>



山口 Yamaguchi

岩国行波の神舞 (岩国市)

舞を神様に捧げるとともに、木の上で曲芸が行われる
<http://yukabanokanmai.com/>



長崎 Nagasaki

竹ン芸 (長崎市)

白い狐に扮した2人の若者が空中芸を披露して神様に感謝の意を示す
<https://www.at-nagasaki.jp/event/51413/>

熊本 Kumamoto

御田祭 (阿蘇市)

白装束の女性たちが神様の食事を頭上に載せて五穀豊穡を願う
<http://asojinja.or.jp/>



愛媛 Ehime

和霊大祭 (宇和島市)

首が動く巨大な「牛鬼」の山車が市内を練り歩き、無病息災を祈る
<https://ushioni.gaina.ne.jp/>



祭りを支える人びと

祭りの裏側では、さまざまな人たちが祭りに携わっている。
祭りの舞台裏で活躍する人びとを紹介する。



職人の力を束ね、 夜空に大輪の花火を

日本の夏の夜を彩る、花火。和紙や火薬、薬品などをうまく配してさまざまな色や形の花火が作られるが、近年では打ち上げの順番や見せ方なども工夫され、花火をつくる花火師の腕が花火大会の出来を左右するほどだ。

300年以上続く花火屋の「鍵屋」。その名前を継ぐ家に、次女として生まれた天野安喜子さんは、小学生の頃から父の姿に憧れていた。「父のように格好よくなりたい」。そんな単純な思いで花火師を志したという。「跡を継ぐ」と言う娘の夢を父も認めてくれたが、一度だけ猛反対されたことがあった。ひとりの知人もいない花火製造工場に修業に出ると言い出したときのことだ。

「花火師になるなら製造現場も知っておかなくてはと考えました。けれど父は現場ではなく経営面で跡を継ぐことを期待していたようで、説得するのに半年以上の時間がかかりました」

直接火薬に触れる工程には女性花火師はひとりもいな



上／花火プロデューサーとして花火大会をとりまとめる天野安喜子さん（左から10人目）と「鍵屋」のみなさん
下／父の修さんに憧れ、花火師を目指した

かったが、女性だからできないとは思わなかった。ただ、誇りをもった花火師たちを率いるためには、慎重な作業が必要とされる製造現場のことも知ったうえで、職人たちの力を引きだせるように、という強い思いがあった。

作業工程や最新技術などを学んだのち、2000年に鍵屋の十五代目当主となる。今では安喜子さんが中心になり、花火大会を作り上げる。打ち上げる花火の設計から工場



花火の火の粉が舞いあがる中、打ち上げの順番やタイミングを指示する
写真＝タカオ力邦彦（P16も）

への発注、打ち上げる手順や花火大会を盛り上げる音楽の選曲など、その仕事は多岐にわたる。大きな大会では約100名もの花火師を従え、天候や観客の様子を見ながら打ち上げの指示を出す。1時間に300回近くも打ち上げの指示を出す大会もあるという。そんな安喜子さんの活躍に触発されたのか、今では鍵屋チームには7名ほどの女性が加わり、より一体感が生じた。

「花火は昔から人びとに活力を与えてきました。年々技術も進み、華やかさは増しています。でもそれだけでなく、観客が息をつめて次の瞬間を待つ、そうした日本の花火ならではの『間』や『余韻』も大切にしたいと考えています」

江戸の町を照らした花火には、震災や洪水などの災害被害者に対する鎮魂の祈りが込められていた。そんな伝統を背負う安喜子さんの心には「火への敬意を忘れるな」という先代の父の言葉が生きている。

花火屋「鍵屋」の花火が打ち上げられる東京都の江戸川区花火大会
写真提供＝江戸川区花火大会実行委員会事務局

京都から全国へ広まる 「ごみゼロ大作戦」!

協力●一般社団法人祇園祭ごみゼロ大作戦



“Reuse” のマークを付けてごみを減らす



揃いのTシャツを着た大学生ら約2200人がボランティアで参加

1100年もの歴史を誇る京都市の祇園祭。街中に屋台が
出回る期間には、全国からおよそ60万人もの観光客が訪
れるが、一方で50t近く出る大量のごみの一部が、街中に
捨てられていることが問題になっていた。

この問題を解決し、ごみに対する意識を高めようと
2014年に立ち上げたのが「祇園祭ごみゼロ大作戦」だ。こ
のプロジェクトでは、使い捨て食器のごみを削減するた
め、祭りの期間中に店出する屋台に再利用可能な食器を
貸し出したり、エコステーションで資源物とごみの分別
回収を行ったり、食器の回収を行った。2000人以上のボ
ランティアが参加し、2014年は来場者数が前年比で24%
増えたにもかかわらず、ごみの全体量が25%減るとい
う好結果を生み出した。そして2017年には、企業の協力に
より、再利用の食器にシールを貼り付け、回収率を上げ
る試みにも取り組み、実績を上げている。

このプロジェクトの中心となっている、環境NPO「地

域環境デザイン研究所ecotone」代表理事の太田航平氏
は言う。「食器を返すときに『ごちそうさま』や『おおき
に（ありがとう）』と声をかける来場者が増えた。これは
使い捨て食器ではなかったこと」。また、毎年参加してい
るボランティアの若者も多く、毎年続けることで「意味
や意義も広まってきた」と口ぐちに語るなど、祭りを通
じて環境問題への意識の高まりを感じているようだ。

この作戦は、他都市からも注目を集めている。隣の大
阪府で行われる天神祭の主催者らは、祇園祭の手法を採
り入れ「天神祭ごみゼロ大作戦」を一部地域で実施し始
めた。その他、様々な地域からも視察や調査に訪れてお
り、「ごみゼロ大作戦」は、京都から全国へ広がる勢い
を見せている。



左／可燃物、かん、ペットボ
トルなどごみを分別する場所を約
50カ所設置
右／天神祭の活動では約60tだ
った可燃ごみが1年目には約
30tまで削減した（写真下）

知りたい! 祭りの衣装

神様の乗り物である神輿をかつぐ人々の衣装は、約400年
前から伝わるものが多い。その代表的なものを紹介しよう。

協力●浅草中屋(あさくさなかや)



① 鉢巻
昔の武士たちが着用し、祭りで
は元気のよさを示すために頭に
巻く布

② 袴纏
職人や商人の仕事着だったが、
現在は神輿を担ぐ際に着用する

③ 鯉口シャツ
下着の一種。袖の形が鯉の口に
似ていることからその名が付い
た

④ 腹掛け
かつての労働着。仕事道具など
を入れる大きなポケットが付く

⑤ 直足袋・地下足袋
着物を着た時に履く足袋に靴底
をつけたもので、もとは労働作
業用の履物

⑥ 雪駄
竹の皮で作った草履の裏に皮を
張り付けた履物。防水性に富む

子どもが主役の祭り

その昔、子どもは病気に掛かりやすかった。そこで日本では子どもを祭りに参加させて、子どもの健やかな成長を祈る祭りを言い、現在も各地で催されている。

ぺたんと額に印を押して 成長祈願

関東地方北部に位置する栃木県足利市では、子どもの健やかな成長を祈る「初山祭り」が毎年6月1日の山開きに足利富士浅間神社で行われる。1年の間に産まれた赤ちゃんを神社に連れて行き、その額に神社の御朱印をおしてもらうのだ。

この神社は、富士山を祀り、初めて山（＝神社）へ参拝することから“初山祭り”とされ、印を押す際の「ぺたん」という擬音から、「ペタンコまつり」の名でも知られる。その昔、この地方で起こった洪水、飢饉、疫病で多くの子どもたちが苦しんだ時、この神社に祀られている山から龍がのぼり、子どもたちが救われたという伝説からこの祭りが始まった。額に印を押す際には、おとなしくしている子もいれば、驚いて泣き出してしまいう子もいるという。



上／額に押された御朱印は神様に守られている印

下／神社の神主さんは心を込めて印を押す

子どもの怠け心を 追いはらう神

東北地方の秋田県男鹿市では毎年12月31日の夜、集落の青年たちが「ナマハゲ」と呼ばれる鬼のような姿になり、「泣く子はいねがー」「親の言うこと聞がね子はいねがー」などと大声で叫びながら地域の家々を巡る。大きな鬼のお面を付けて蓑をまとったその姿を見て驚いて泣きだしてしまう子どももいる。

しかし、男鹿の人々にとってこの「ナマハゲ」は、子どもや大人の怠け心を戒め、無病息災を祈り、田畑の恵みや海の幸・山の幸をもたらし、新年を迎えるにあたっての祝福を与える神、なのである。「ナマハゲ」を迎える家は、昔から伝わる作法で料理や酒を用意し、丁重にもてなす。



ナマハゲが怠ける子どもを探し回ると家族総出で子どもを守る



女の子の成長を 願う祭り

日本では毎年4月に女の子の成長を祈る祭りがある。日本海側に面した鳥取県鳥取市用瀬町では「もちがせの流しびな」が行われている。男女一対の紙で作った人形を藁で編んだ丸い蓋に載せて、桃の花の小枝などを添えて千代川に流すのだ。

もともと、流し雛は紙などで作り、これで身体を撫でて、災いをその人形に移して川などに流す行事として約400年前から行われてきた。現在、祭りの当日は晴れ着を着た女の子たちが河原に集まり、家族や姉妹と一緒に雛人形を流す。その光景は、「女の子の祭り」にふさわしく、実に華やかだ。



上／着飾った女の子が祈りを込めて人形を川に流す
下／川に流す男女一対の人形。人間の身代わりになると信じられてきた

大人も楽しむハロウィン

10月31日の夜、子どもたちがお化けの格好に変装して近所の家を訪ねるハロウィン。もともとは欧州を起源とする祭りの一つだが、2010年頃からこれが日本の20～30代の世代で人気が高まっている。

ハロウィン当日、若者たちは東京の渋谷や六本木などの繁華街にアニメのキャラクターなどに変装して集まり、街をパーティー会場のように練り歩く。その姿を撮り合

ってSNSに投稿し、クラブやレストランでパーティーに参加して楽しんでいる。本来のハロウィンは、秋の収穫を祝い、悪霊を追い出す行事だが、日本では変装を楽しむ、コスプレ・イベントとして定着した。変装用の衣装や化粧道具などの販売コーナーを設けるデパートもあるなど、その経済効果は年々高まっている。



アニメやゲームのキャラクターになりきる若者たち

召し上がれ、
日本

14

たこ焼き

こんがり美味しい祭りの軽食

撮影●名取和久 写真●ピクスタ



屋台では舟形の容器に入れて販売される

はんえんけい かた こむぎ こきじ
半円形の型に小麦粉の生地とたこ
い まる や や
を入れ、丸く焼きあげる「たこ焼き」。
ちよっけい やく ひとくち た
直径が約3～4cmの一口で食べら
れるたこ焼きは、食べ歩きにも都合
がよく、祭りには欠かせない。

や
焼きたてのたこ焼きは、表面がカリッとして香ばしく、一口かじると中身が溶け出してくるほど柔らかい。そして、中のたこには軽い弾力がある。仕上げにかける香辛料などをベースにした甘辛いソースが基本だ。香りのよいかつおぶしや青のり、またマヨネーズをかけると一層美味しさが増す。また、小麦粉の生地には砂糖やチョコレート、果物を加えたり、たこの代わりにチーズや明太子、あるいはソーセージや餅などの違う具材を入れたりなど、さまざまな味を

たの
楽しめるのもたこ焼きの美味しさのひとつ。

や まつ や たい
たこ焼きは祭りの屋台だけでなく、家庭でも作ることができるのも魅力的だ。発祥の大阪では、たこ焼き器が一家に1台あり、各家庭それぞれの味があるという。また、冷凍食品のたこ焼きもスーパーなどで売られ、お弁当のおかずに入れる人もいる。

きんねん てん や てん
近年、チェーン店のたこ焼き店も登場している。たこ焼きは祭りの場だけでなく、日常的に親しまれている。

作り方

- 1 小麦粉に水、だし、卵を加え、熱した型に生地を流す
- 2 小さく切ったたこを入れる
- 3 串で何度か返しながら、丸い形になるよう、焼く
- 4 皿に盛り付け、ソースをかける。お好みで青のり、マヨネーズなどを添える



祭りの屋台のたこ焼き屋。金属の串で何度か返して丸い形に仕上げる



半円形の型に小麦粉の生地と小さく切ったたこなどを
入れて焼く



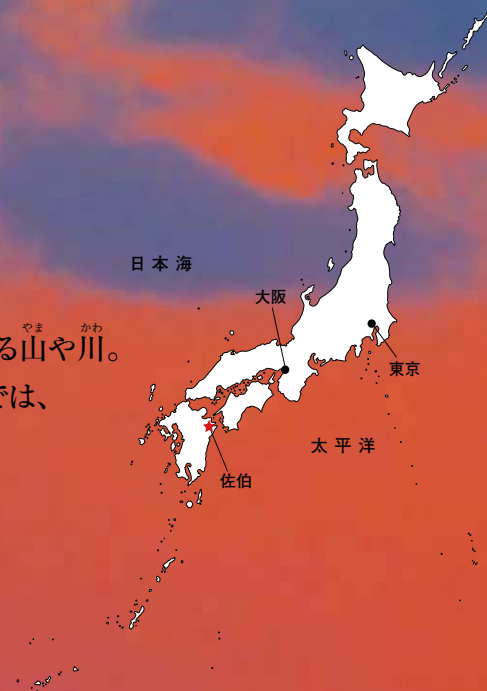
うみ かわ やま ぜっ けい ひろ
海・川・山の絶景が広がるまち

佐伯

がん か ひろ こう だい うみ き しょう せい ぶつ せい そく やま かわ
眼下に広がる広大な海。希少な生物が生息する山や川。

おお し ぜん めく う おお いた けん さ いき し
多くの自然の恵みを受けてきた大分県佐伯市では、
1年を通して多くの祭りが行われている。

写真提供●佐伯市観光協会、ピクスタ、アマナイメージズ





佐伯市南部の山間の巨大な岩盤の上を流れる藤河内溪谷。キャニオニングなど刺激的な体験をすることができる



上／5月中旬から6月にかけて市内の番匠川の上流域には約数十万のゲンジボタルが集まり、ホタル祭りも開催される
左／西部の山間にはニホンカモシカやソボサンショウウオなどの稀少生物が生息する
写真提供＝豊後大野市自然史友の会

九州地方の大大分県南東部に位置し、九州一の面積(903.11km²)を誇る佐伯市。複雑に入り組んだ海岸からは青い海が広がり、豊かな漁場には1年を通じて約400種類もの魚介類が集まる。そのため、佐伯の寿司はネタが多くて、味は天下一。とりわけ伊勢海老と色鮮やかな緋扇貝は、多くのグルメ通を唸らせるほど美味だ。そんな絶品を手軽に食べることができる、と寿司店や市場には近隣県からも訪れる人が絶えない。



上左／豊漁を願って毎年9月に開催される「ジョーヤラ」。色鮮やかな大漁旗が海風にたなびく
上右／木浦すみつけまつりでは参加者が幸せを祈って互いの顔に墨をつける。墨の量が多ければ多いほど幸せに恵まれるという
左／地元の人びととのふれあいを通じて佐伯の自然や文化、歴史を知るグリーンツーリズム



海や山などの自然溢れる佐伯では、それらから受ける恵みが非常に豊富だ。海や山の神様に感謝するため、1年間にわたり、さまざまな祭りが行われる。たとえば、毎年9月に行われる「ジョーヤラ」は地元の漁師や若者たちが「ジョーヤラ、ジョーヤラ(大漁でありますように、の意)」と掛け声をかけながら、色鮮やかな大漁旗で飾った船を漕いで威勢を競い合う。このほか、2年に1度行われる「木浦すみつけまつり」は大根を使って墨を女性



魚でとった出汁を使った「ごまだしうどん」。井に茹でたうどんを入れ、ごま出汁をかけて湯を注げば出来上がり



伊勢海老や緋扇貝も特産品

の顔に塗り付けて幸運を祈るというユニークな祭りとして知られる。

佐伯市の西部には九州地方最高峰の高さを誇る山々が連なっている。そこにはニホンカモシカやソボサンショウウオなどの絶滅危惧種の動物が生息し、その貴重な自然環境と人間が共存するモデル地域として、2017年6月にユネスコエコパークに指定された。

こうした大自然を体感する場としてキャンプ場などのアウトドア施設もあり、なかでも佐伯の北西部を流れる桑原川の藤河内溪谷はウォータースポーツを満喫できるとして人気が高い。巨大な花崗岩の一枚岩と、長年の歳月でできた緩やかな曲線の沢は、夏になるとその岩から川へ飛び込んで沢を下る迫力満点のキャニオニングを楽しめる。豊かな清流は刺激的な体験だけでなく、優雅なひとときをももたらす。5月中旬から6月中旬にかけて、

市内を流れる番匠川では数十万匹というゲンジボタルの幻想的な舞を堪能する祭りも開催される。

また、佐伯では温暖な気候を活かしてかぼすなどの柑橘類や昼夜の寒暖差で甘酸っぱさが増すぶどうなどが栽培され、それらを使った酢などの調味料も土産物として好評だ。農村と漁村の双方のよさを味わえる佐伯ならではの観光として、近年はグリーンツーリズムが積極的に取り組まれている。山間部の農家や漁業に関わる施設などに宿泊し、収穫や食事などをとにすることで、佐伯の人びとが長年大切にしてきた文化や料理を時間をかけてじっくりと味わう旅も楽しい。

海と山、そして里山の自然。一つの地域でここまで多くの魅力が詰まっている佐伯では訪れる人それぞれの楽しみ方がある。それはかけがえのない旅の思い出となるだろう。



佐伯エリア地図

●交通案内

東京・羽田空港、愛知・中部国際空港、大阪・伊丹空港から空路で大分空港まで約1～1時間半程度。空港からバスで大分駅、大分駅から特急に乗車し、佐伯駅まで約70分。

●問い合わせ

佐伯市観光協会

<http://saiki-kankou.com/>

さいきグリーンツーリズム研究会

<http://www.yappa-saiki.sakura.ne.jp/saiki-gtr2/>



ニッポン



みやげ——15



祭りの非日常感を演出 お面

写真提供●ピクスタ

木や紙などで人や動物の顔をかたどった「お面」。今から約1400年前、舞踊などが大陸から日本に伝来してから、お面をつけて演じる能や狂言が朝廷などで行われるようになった。こうした芸能がしだいに庶民の娯楽として広まるとともに、お面も祭りや行事などの場で用いられるようになった。

お面で顔を覆うことで、神様など人間以外のものに成り変わることができるため、神様を迎え、もてなす祭りには欠かせないものとなった。また、お面をつけると自らの正体を隠すことができるため、非

日常感を楽しむ祭りには欠かせない小道具でもあった。

代表的なものに鬼や狐をかたどったお面があるが、現在、祭りの屋台では、鬼や狐などの他に、プラスチック素材のアニメキャラクターなどのカラフルなお面も軒先に並ぶ。大人だけでなく、子どもも頭の上に載せたり、浴衣や法被などと合わせたりと、祭りのコーディネートを楽しむアイテムとして親しまれている。

niponica

にほにか

〈日本語版〉

no.24

発行／日本国外務省

〒100-8919 東京都千代田区霞が関2-2-1

<http://www.mofa.go.jp/> (外務省ホームページ) <http://web-japan.org/> (日本紹介ウェブサイト)